

大和ハウスなど

白色LED照明を開発

大和ハウス工業（大阪市）と製鋼原料商社・ナベショー（大阪市）は十八日、京セラ（京都市）と共同開発した、商業施設向けの自動調光機能付き白色LED照明システム「グレース ルミノ」を四月一日からコンビニエンスストアを対象に発売する、と発表した。

同システムを導入すると、コンビニ店の照明に使用する電気代が半額以下に抑えられ、導入費は四年以内に回収できる見込み。消費電力は蛍光灯比で最大約53%削減できる。

販売価格はコンビニ一店（延べ床面積約二百平方メートル）当たり施工費込みで約二百五十万円。初年度の販売目標額は二百億

自動制御で電気代半分 グレース ルミノ コンビニ向け来月発売



「グレース ルミノ」の白色LED照明
18日、奈良市左京6丁目の大和ハウス工業総合研究所

円。

同システムは、①白色LED照明の照度センサー②制御装置③の三点で構成。天候などを感知し、LED照明の発光を室内に最適な状態に自動制御する。消費電力量やCO₂排出量などはモニタリングシステムで一元管理できる。

LEDの発光方式は色のばらつきやムラが少ない「紫LED+RGB蛍光体方式」を採用し、自然光に近い色を実現。京セラの技術で、LEDの寿命を市販品比で二・五倍の十万時間に伸ばした。さらに県立医科大学との研究で目の疲労やストレスの軽減を証明した。

照明配置やシステム設計はナベショー顧問の照明家、豊久将三氏が監修している。

大和ハウス工業の濱隆常務執行役員は「新築既築を問わず新しい照明計画を提案できる」としている。

五月以降、街路灯、ホテル、オフィス、大型店舗用の同システムを順次販売する。